

A 吃音・場面緘黙のある児童の実態と支援の調査

この度は調査へのご協力ありがとうございます。

○この調査は、「ことばの教室（言語障害通級指導教室）を利用する児童」「吃音・場面緘黙のある実態」について、先生のお考えについてお聞きするものです。

○調査対象者は、**現在または過去に「吃音のある児童」の担当経験がある先生です。**です。

○正しい答え・間違った答えなどはございませんので、ご回答される先生の思った通りにお答えください。

○本調査は統計処理をするので個人が特定・公表されることは一切ありません。また、結果につきましても、学術的な目的以外に使用いたしません。

○それぞれの質問をよく読み、該当する番号に○、または空欄に必要事項を記入してお答え下さい。

ご回答もれないようにお願いいたします。

東京学芸大学・橋本創一

【1】ご回答される先生と学校についてお答えください。

（1）あなたの教員勤務年数をご記入ください。（____年）

（2）あなたのことばの教室（言語障害通級指導教室）の担当年数を教えてください。（____年）

（3）これまでに個別指導を担当した「吃音のある児童」の総人数を教えてください。（____人）

（4）貴校のことばの教室（言語障害通級指導教室）に在籍している児童の総人数をご記入ください。

（____人）

（5）貴校のことばの教室（言語障害通級指導教室）に在籍する障害別の児童数をそれぞれご記入ください。

※合併する障害のある児童がいる場合は、該当するすべての障害にそれぞれ1人として、重複してご記入ください。

※正式な診断の有無ではなく、支援ニーズがある児童数をご入力ください。

※在籍がない場合は「0」とご記入ください。

・構音障害（____名）

・吃音（____名）

・言語発達遅滞（____名）

・難聴

・限局性学習症（の症状がある）（____名）

・自閉スペクトラム症（の症状がある）（____名）

・注意欠如多動症（の症状がある）（____名）

・場面緘黙（の症状がある）（____名）

・その他（____）（____名）

【2】吃音のある児童への具体的な支援や配慮について

現在、または直近であなたが担当している（していた）吃音のある児童の中から、【指導経過や学校・家庭との連携状況について、最も詳細かつ正確に振り返ることが可能な事例1名】を具体的に思い浮かべ、その児童の状況として

最も当てはまるものを選択し、以降の設問にお答えください。

(※事例の昨年度末、または現在の状況を基準にお選びください)

(1) 想定した児童は、あなたにとってどのような事例ですか。

☐ 現在、継続して担当している児童(現在の状況を基準にお答えください)

☐ 過去に担当していた児童(退級・卒業、または担当を外れた児童)(最後に指導していた「年度末」の状況を基準にお答えください)

(2) 吃音のある児童のプロフィール

① その児童の「指導時点、または現在の学年」をお答えください。()年生

② その児童の「指導時点、または現在」の吃音の症状で最も頻繁の高いものを選んでください。

☐ 連発(語頭や語中の音を繰り返す「こ、こ、こ、こんにちは」など)

☐ 伸発(言葉の一部を引き伸ばす「こ——んにちは」など)

☐ 難発(硬直し声や息が出なくなる「・・・こんにちは」など)

☐ 不明瞭(症状ははっきりしない)

☐ わからない

③ その児童の「話す場面における不安や、周囲からの評価懸念」について、最も当てはまるものを1つ選んでください。

☐ 非常に強く見られる ☐ やや見られる ☐ どちらともいえない

☐ あまり見られない ☐ 全く見られない(意識が低いなど)

【3】通級による指導について

(1) 通級による指導で実践する児童への指導・支援、学習内容についてお答えください。(複数回答可)

☐ 遊び等を通じた、情動の発散や心理的安定を図る支援

☐ 吃音についての指摘はせず、「世の中には色々な話し方やスピードの人がいる」という説明・絵本や専門の教材を用いた間接的なアプローチ

☐ 児童自身の吃音特性(どんな時にしやすいか等)の理解を促すアプローチ

☐ 吃音に伴う心理的な随伴症状(心理的な回避、諦め、黙り込みなど)への指導・支援

☐ 流暢性形成法(吃音症状が出にくくなるように、ゆったりとした速度で、あるいは引き伸ばして、柔らかい起声によって発話する方法)

☐ 吃音緩和法(吃音症状がなくなることを主目標とせず、目立って辛い症状を比較的目立ちにくく楽な症状に置き換える方法)

☐ 「上手に話せたね」「今ちょっとつかえたね」などのフィードバックを即座に返す行動療法による方法(リッカム・プログラム)

☐ 要求-能力モデル(Demands and Capacities Model, DCM)に基づく環境調整

☐ 担任や友だちに対して、自分の吃音について「どのように説明するか／どんな配慮をしてほしいか」を自分で発信するための指導・支援

☐ 同じ悩みを持つ仲間(ピア)との交流の機会の設定

☐ その他()

(2) 通級による指導を実践する中での難しさや負担感について教えてください。(複数回答可)

- ☐ 児童本人の吃音(発語)に関する意識や自己理解がどこまであるのかがわからない
- ☐ 児童本人が吃音について悩んでいて、その対応や支援を提示することが難しい
- ☐ 吃音について児童へ指摘すべきなのか、指摘しない方がよいのか迷っている
- ☐ 児童自身の吃音特性(どんな時に出やすいか等)に関する理解を促す方法が難しい
- ☐ 児童にある障害特性(自閉症や情緒障害など)へのアプローチが優先されて、吃音に関する支援を

おこなう余裕がない

- ☐ 吃音に伴う心理的な随伴症状(心理的な回避、諦め、黙り込みなど)への対応があって難しい
- ☐ 吃音症状が出にくくなるように、ゆったりとした速度で、あるいは引き伸ばして、柔らかい起声によって発話する方法(流暢性形成法)を導入しているが効果がみられない
- ☐ 吃音症状の改善を目標とせず、比較的目立ちにくく楽な話し方・言葉に置き換える方法(吃音緩和法)を導入しているが効果がみられない
- ☐ 「上手に話せたね」「今ちょっとつかえたね」などのフィードバックを即座に返す行動療法による方法(リッカム・プログラム)を導入しているが効果がみられない
- ☐ 児童の能力(言語、認識、社会性、発音運動など)に応じた会話・コミュニケーション状況をなるべく提供するという環境調整をおこなっているが効果がみられない
- ☐ 自身の吃音について、周囲の友だちに「どのように説明するか／どんな配慮をしてほしいか」を自分で発信するための具体的な支援方法が難しい
- ☐ その他()

(3)児童への指導・支援を行う上での、先生の「困難感や負担感」について、最も近いものを1つ選んでください。

- ☐ 非常に強く感じる(非常に困難である) ☐ やや感じる ☐ どちらともいえない
- ☐ あまり感じない ☐ 全く感じない(困難ではない)

(4)【3】(3)で選んだ難しさや負担感について、具体的な児童の様子や、指導を進める上での理由を教えてください。

()

(5)その児童への指導・支援に際して、外部や学内の専門家(大学関係者、巡回相談員等)からのコンサルテーションを受けたり、医療機関(病院等)と連携したりする機会がありましたか。最も当てはまるものを1つ選んでください。

☐【定期的な機会の活用】自治体の専門巡回相談や大学関係者、あるいは元々児童が受診していた医療機関などと、定期的に情報共有や助言を受ける機会があった

☐【言語指導上の困難による要請】言語面のアプローチ(流暢性のコントロールや発話テクニックの指導・定着など)に強く苦労・困惑したため、自ら専門家や医療機関へ相談・連携を依頼して助言を受けた

☐【心理面・環境上の困難による要請】心理面のアプローチ(随伴症状、話すことへの拒否感、からかいの発生など)に強く苦労・困惑したため、自ら専門家や医療機関へ相談・連携を依頼して助言を受けた

☐【連携の必要性を感じたが断念】専門家からの助言や医療連携の必要性を強く感じたが、周囲に相談できる専門機関や適切な人材(心理職・専門医等)がいなかった

☐【連携の機会・必要性なし】外部や医療機関と連携する機会はなく、指導を進める上での必要性も特に感じていなかった

☐その他()

【 4 】保護者への支援について

(1) その児童の保護者に対して実施している支援内容として、当てはまるものをすべて選択してください。
(複数回答可)

- ☐吃音の症状に関する相談(接し方や予後など)
- ☐授業の遅れや、学習への苦手意識に関する相談
- ☐不登校(行き渋り)や友人関係に関する相談
- ☐吃音に伴う児童の心理面(人前の回避、自信喪失など)に関する相談
- ☐吃音に起因するトラブル(からかい等)に関する相談
- ☐家庭での日常生活や生活習慣に関する相談
- ☐家庭での保護者が感じる「育てにくさ」に関する相談
- ☐きょうだい関係や、家庭内でのコミュニケーションに関する相談
- ☐毎日の宿題(提出物)にとっても時間がかかる等の相談
- ☐進学や将来の就職、大人になってからの場面緘黙の影響など、将来への不安に関する相談
- ☐積極的な相談はない
- ☐その他()

(2)保護者への支援、カウンセリング等を行う上での「困難感や負担感」について、最も近いものを 1 つ選んでください。

- ☐非常に強く感じる(非常に困難である) ☐やや感じる ☐どちらともいえない
 - ☐あまり感じない ☐全く感じない(困難ではない)
-

【 5 】在籍学級(校)との連携について

(1) その児童の在籍学級担任に対して実施している具体的な支援・連携内容として、当てはまるものをすべて選択してください。(複数回答可)

- ☐吃音の特性や本人の状態に関する情報提供(資料配付や口頭説明)
- ☐授業(音読や発表)での具体的な配慮や合理的配慮に関する協議
- ☐行事、係活動、班決めなどの学級生活における環境調整に関する協議
- ☐からかいやトラブルが発生した際の対応方針に関する共有・協議
- ☐担任からの日常の様子についてのヒアリングや、悩み・相談への対応
- ☐その他()

(2)担任との連携を進める上での「困難感や負担感」の程度として、最も当てはまるものを 1 つ選択してください。

- ☐非常に強く感じる(非常に困難である) ☐やや感じる ☐どちらともいえない
- ☐あまり感じない ☐全く感じない(困難ではない)

(3)担任への支援のうち、先生が「重要だと考えながらも、実際には十分に実施できていない」と感じるものはどれですか。(複数回答可)

- ☐ 吃音の特性や本人の状態に関する情報提供(資料配付や口頭説明)
- ☐ 授業(音読や発表)での具体的な配慮や合理的配慮に関する協議
- ☐ 行事、係活動、班決めなどの学級生活における環境調整に関する協議
- ☐ からかいやトラブルが発生した際の対応方針に関する共有・協議
- ☐ 担任からの日常の様子についてのヒアリングや、悩み・相談への対応
- ☐ 特に難しいと感じるものはない
- ☐ その他()

(4)前問【5】(3)で「取り組むべき(重要である)」と考えながらも、実際には実施できていない、または不十分である」と回答した理由について、当てはまるものをすべて選んでください。(複数回答可)

- ☐ 【担任の時間的制約】担任教諭が多忙であり、打ち合わせや方針すり合わせの時間を確保することが物理的に難しい
- ☐ 【担任の意識的違い】担任教諭の吃音理解や合理的配慮への関心が低く、協力を得られにくい
- ☐ 【児童の心理的要因】児童本人が、在籍学級での特別な配慮や担任からの個別アプローチを望まない(目立ちたくない等)
- ☐ 【保護者の意向から】保護者から、在籍学級では「周囲と全く同じように(普通に)扱ってほしい」等の強い要望がある
- ☐ 【通級システムの要因】通級指導教室の運営(担当児童数過多、業務過多等)が多忙であり、担任と密に連携をとる時間的余裕が制度上ない
- ☐ 【学校システムの要因】自校通級ではなく他校通級(巡回指導含む)であるため、物理的・距離的に担任とのパイプを作り環境調整を主導する仕組みが欠如している
- ☐ その他()

(5)他の吃音のある児童との交流の機会を設定していますか。最も当てはまるものを選び、お答えください。

- ☐ 定期的に設けた(年間 1,2 回程度)
- ☐ 定期的に設けた(年間 3 回以上)
- ☐ 不定期だが、必要に応じて設けた(年間 1,2 回)
- ☐ 不定期だが、必要に応じて設けた(年間 3 回以上)
- ☐ 計画したが、実施できなかった
- ☐ 実施していない

(6)その児童が在籍学級での発表や音読、行事等の場面において、代替案(工夫や免除)を用いる際、その実施形態として最も当てはまる状況を 1 つ選んでください。

- ☐ 発表や音読自体を「免除(パス)」することが多い
- ☐ 音読をペアで読む、役割を小分けにするなど、「話す負担を減らした形」で参加させている
- ☐ ICT機器の活用(録音の再生など)や資料の作成など、「話す以外の方法」で集団に貢献・発表させている
- ☐ 特に在籍学級での発表や音読における代替案(配慮)の調整は行っていない
- ☐ 把握していない
- ☐ その他()

(7)当該児童が在籍学級で代替案(パスや録音の活用など)を用いる際、クラスの他の児童に対して、「ずるい」という誤解を招かないための説明や、多様性に関する学級経営上のアプローチを担任教諭とどのように共有・実施していますか。(複数回答可)

- ☐ 通級担当者が主体となり、クラス全体へ多様性や吃音に関する説明を行った
 - ☐ 学級担任が主体となり、クラス全体へ説明や学級経営上(学び方の違い等)の指導を行った
 - ☐ 通級担当者と担任が事前に連携した上で、クラス全体への働きかけを行った
 - ☐ 事前説明はせず、からかいや真似が起きた際(または懸念される際)にその都度指導している
 - ☐ 周囲の反応(目立つこと)を懸念し、代替案の実施自体を躊躇・縮小している
 - ☐ クラス全体への説明や特別なアプローチは特に実施していない
 - ☐ その他()
-

【 6 】児童の居場所感について

その児童にとっての「安心できる居場所」は、主にどこに形成されていたと感じられますか。最も当てはまると思われるものを【2 つまで】お選びください。

- ☐ 家庭 (保護者の理解があり、最も素の状態でいられる場所)
- ☐ 個別指導の空間 (担当者と 1 対 1 で安心して話せる時間)
- ☐ グループ指導・ピア交流の場 (同じ悩みを持つ仲間と過ごす時間)
- ☐ 特別支援学級の全体 (担任の理解や適切な配慮があり、クラス全体に居心地の良さがある)
- ☐ グループ指導・役割の場 (代替案などを通じて、自分の役割や自己発揮ができていた瞬間)
- ☐ 習い事や余暇活動 (学校外のコミュニティ)
- ☐ どこにも居場所を見出せていない、あるいは判断が難しい
- ☐ その他()
- ☐ わからない

※もしよろしければ、上記のように感じられた具体的なエピソードや理由があればご記入ください
(自由記述)
(

)

最後に、対象児童の吃音の支援について、先生のお考えや困っていることがあればお書きください。

(

)

【 7 】場面緘黙のある児童への具体的な支援や配慮について

以下の質問は、現在または過去に「場面緘黙のある児童」の担当経験がある先生を対象としております。

(該当する児童がいない場合は未記入で構いません)

(1)その児童の「話す場面における不安や、周囲からの評価懸念」の状況について、最も当てはまるものを 1 つ選んでください。

- ☐ 非常に強く見られる ☐ やや見られる ☐ どちらともいえない
- ☐ あまり見られない ☐ 全く見られない(意識が低いなど)

(2)通級において場面緘黙のある児童への指導・支援を実践する中での難しさや負担感について教えてください。(複数回答可)

- ☐ 児童の特性や受け止め方(ニーズ)に合わせた、最適な指導・学習内容を検討することの難しさ
- ☐ 児童本人と「話せない状態」について、どの程度、どのように話題(直面化)にしてよいかという葛藤
- ☐ 実際の指導法・アプローチを選択する際における、学術的根拠(エビデンス)や評価基準の不足への不安
- ☐ 「遊び的な活動」の目的意識や、具体的な展開への位置付けの難しさ
- ☐ その他()

(3)児童への指導・支援を行う上での、先生の「困難感や負担感」について、最も近いものを1つ選んでください。

- ☐ 非常に強く感じる(非常に困難である) ☐ やや感じる ☐ どちらともいえない
- ☐ あまり感じない ☐ 全く感じない(困難ではない)

(4)その児童にとっての「安心できる居場所」は、主にどこに形成されていたと感じられますか。最も当てはまると思われるものを【2つまで】お選びください。

- ☐ 家庭(保護者の理解があり、最も素の状態でいられる場所)
- ☐ 個別指導の空間(担当者と1対1で安心して話せる時間)
- ☐ グループ指導・ピア交流の場(同じ悩みを持つ仲間と過ごす時間)
- ☐ 特別支援学級の全体(担任の理解や適切な配慮があり、クラス全体に居心地の良さがある)
- ☐ グループ指導・役割の場(代替案などを通じて、自分の役割や自己発揮ができていた瞬間)
- ☐ 習い事や余暇活動(学校外のコミュニティ)
- ☐ どこにも居場所を見出せていない、あるいは判断が難しい
- ☐ その他()
- ☐ わからない

※もしよろしければ、上記のように感じられた具体的なエピソードや理由があればご記入ください
(自由記述)
()

(5)当該児童が在籍学級での発表や音読、行事等の場面において、代替案(工夫や免除)を用いる際、その実施形態として最も当てはまる状況を1つ選んでください。

- ☐ 発表や音読自体を「免除(パス)」することが多い
- ☐ 音読をペアで読む、役割を小分けにするなど、「話す負担を減らした形」で参加させている
- ☐ ICT機器の活用(録音の再生など)や資料の作成など、「話す以外の方法」で集団に貢献・発表させている
- ☐ 特に在籍学級での発表や音読における代替案(配慮)の調整は行っていない
- ☐ 把握していない
- ☐ その他()

(6)その児童の保護者に対して実施している支援内容として、当てはまるものをすべて選択してください。(複数回答可)

- ☐ 吃音の症状に関する相談(接し方や予後など)
- ☐ 授業の遅れや、学習への苦手意識に関する相談
- ☐ 不登校(行き渋り)や友人関係に関する相談

- ☐ 吃音に伴う児童の心理面(人前の回避、自信喪失など)に関する相談
- ☐ 吃音に起因するトラブル(からかい等)に関する相談
- ☐ 家庭での日常生活や生活習慣に関する相談
- ☐ 家庭での保護者が感じる「育てにくさ」に関する相談
- ☐ きょうだい関係や、家庭内でのコミュニケーションに関する相談
- ☐ 毎日の宿題(提出物)にとっても時間がかかる等の相談
- ☐ 進学や将来の就職、大人になってからの場面緘黙の影響など、将来への不安に関する相談
- ☐ 積極的な相談はない
- ☐ その他()

(7)保護者への支援、カウンセリング等を行う上での「困難感や負担感」について、最も近いものを1つ選んでください。

- ☐ 非常に強く感じる(非常に困難である) ☐ やや感じる ☐ どちらともいえない
- ☐ あまり感じない ☐ 全く感じない(困難ではない)

(8)その児童の在籍学級担任に対して実施している具体的な支援・連携内容として、当てはまるものをすべて選択してください。(複数回答可)

- ☐ 場面緘黙の特性や本人の状態に関する情報提供(資料配付や口頭説明)
- ☐ 授業(音読や発表)での具体的な配慮や合理的配慮に関する協議
- ☐ 行事、係活動、班決めなどの学級生活における環境調整に関する協議
- ☐ からかいやトラブルが発生した際の対応方針に関する共有・協議
- ☐ 担任からの日常の様子についてのヒアリングや、悩み・相談への対応
- ☐ その他()

(9)在籍学級担任との連携を進める上での「困難感や負担感」の程度として、最も当てはまるものを1つ選択してください。

- ☐ 非常に強く感じる(非常に困難である) ☐ やや感じる ☐ どちらともいえない
- ☐ あまり感じない ☐ 全く感じない(困難ではない)

※質問は以上です。ご協力ありがとうございました。